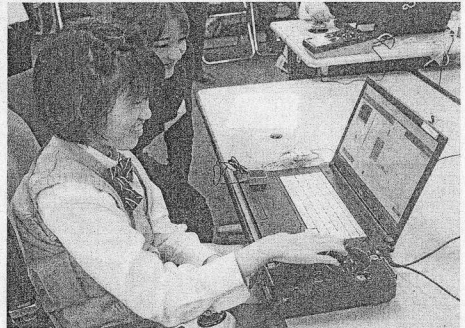


プログラミング教育

平成32年度から小学校で必修化される「プログラミング」。既に特別支援学校でも障害のある児童・生徒の実態に応じたプログラミ

ング教育の在り方について検討が始まっている他、仙台市の工業高校では高校生による小学生へのプログラミング教室が行われた。

東京都立光明学園



一人一人の障害の特性に応じた入力機器を使って、プログラムを入力していく生徒

肢体特性に合った授業、NPOと開発

る音などを制御するプログラミングの方法を学ぶ。本実証研究は、日常生活とプログラムを関連付けて考える活動や実際に自分の意図した通りに動作するよう簡単なプログラムを組み立てる活動

を通じて、プログラミング的思考力を育成するだけでなく、社会や他者を意識させる課題設定の工夫によって、障害がある子どもたちならではのアイデアや工夫が生まれることも大切に行っている

とCANVASの土橋遊夫によつて、障害がある子どもたちならではのアイデアや工夫が生まれることも大切に行っている

「本実証研究は、日常生活とプログラムを関連付けて考える活動や実際に自分の意図した通りに動作するよう簡単なプログラムを組み立てる活動を通じて、プログラミング的思考力を育成するだけでなく、社会や他者を意識させる課題設定の工夫によって、障害がある子どもたちならではのアイデアや工夫が生まれることも大切に行っている

氏。昨年度取り組んだゲーム制作では、生徒自ら「ぼくたちのように障害のある人でも楽しめるように」との視点で遊び方や内容を工夫する姿も見られたという。プログラミングは、試行錯誤がしやすいだけでなく、できたことが分かりやすいため、達成感も得やすい。障害のある子どもでも、身近なものを使った工夫で安全性や操作性、視認性を担保しプログラミングの楽しさを実感することができるとして、引き続き産学官が連携し、プログラミング教育の充実に向けた環境づくり、人材育成を進めていく考えだ。

東京都立光明学園 03-3323-8421

東京都立光明学園(田村康二朗校長)は、平成29年度総務省「若年層に対するプログラミング教育の普及推進」事業の指

定を受けているNPO法人CANVASと共に、肢体不自由児・生を対象としたプログラミング授業の実証研究に取り組んでいる。講師(技術支援)、メンターとして協力し、高等部1・2年生2人の授業を行った。

実証の狙いは、肢体不自由のある生徒へのプログラミング教育を通じた論理的思考力、表現力、創造力の養成▽障害特性に合わせた入力支援機器の活用や教材の開発など、肢体不自由のある生徒への機材面・コミュニケーション面でのアプローチの実証▽社会とつながりのあるプログラミング教育のモデルづくりの

著作権者による
掲載許諾取得済み